

源流人会だより

ぽたたい!

源流のひとしずく

創刊号

2003 夏

森と水の源流館

住所 ●奈良県吉野郡川上村宮の平
財団法人吉野川紀の川源流物語
TEL ●07465・2・0888
FAX ●07465・2・0388
URL ●http://www.genryuu.or.jp
E-mail ●genryuu@joy.ocn.ne.jp

CONTENTS

創刊にあたり
スタッフ紹介
森と水の源流館に寄せて 山道省三
源流塾が始まりました
「水源地の森」生態調査

■源流塾が始まりました。

■「水源地の森」生態調査



写真 カワゲラのなかま 上流域の流れの速い瀬に生息する種類が多い。肉食でカゲロウの幼虫などを食べる。

ぽたたい

源流のひとしずく

夏
創刊号

TEL 07465・2・0888

発行日 平成15年7月31日発行

発行所 財団法人吉野川紀の川源流物語



吉野川・紀の川の流れをさかのぼってゆくと、やがて深い森へとたどりつきます。水源地の村・川上村ではこの奥地に残されてきた手つかずの原生林をこのままの姿で未来に手渡せるよう、購入し、保全しています。蛇口のむこうにつながる森の姿を見て感じて下さい。

源流体感

イベントのご案内

森と水の源流館では、森や川にたっぷりひたり、自然の息づかいを肌で感じてみることを大切に、遊びの中から芽生える一人ひとりの好奇心や研究心に目を向けてもらえる体験プログラムをご用意しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

申し込み順・先着順。近鉄大和上市駅まで送迎バスあり
小学生には保護者が同伴下さい。



水源地の森ツアー

参加者
募集中

もりみず探検隊

源流の森を歩く

7月・8月 ●夏の森を歩こう★★

7月6日(日)、8月3日(日)
各日9:30~16:30
対象:小学3年生以上/参加費:大人3,000円、小中2,000円

9月 ●「水」探訪と源流ツアーの2日間★★

13日(土)~14日(日)
13日13:30集合、14日16:30解散
対象:小学3年生以上/参加費:大人5,500円、
小中4,000円(宿泊代別)

10月 ●森のおそうじと水の楽器づくり★

26日(日)9:30~16:30
対象:親子/参加費:大人3,000円、小中2,000円

11月 ●落ち葉をふみしめながら歩く★★★

2日(日)9:30~16:30
対象:高校生以上/参加費:大人3,000円

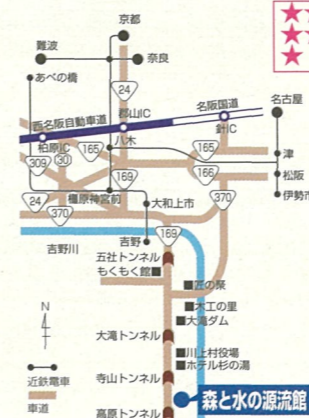
12月 ●冬の森と温泉のほっこりツアー★★

13日(土)9:30~16:30
対象:小学3年生以上/参加費:大人3,500円、
中2,500円、小2,300円

3月 ●早春の森と温泉のほっこりツアー★★

2004年3月21日(日)9:30~16:30
対象:小学3年生以上/参加費:大人3,500円、
中2,500円、小2,300円
※各日定員:25名(先着)

★★★:距離コースとともに健脚向きです(往復約4km)
★★:比較的のんびり歩くコースです(往復約2km)
★:ちょっとワイルドな渓谷探検コースです



入館料	個人	団体(25人以上)
一般(高校生以上)	400円	300円
小・中学生	200円	150円

○小学生未満は無料
○学校教育機関での利用は小中とちり1,000円
開館時間●9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日●毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日から1月3日)

源流体験教室

7月●夏休み! 森と水のワークショップ

19日(土)~20日(日)
19日10:00集合、20日16:00解散
対象:小学3~6年生 参加費:13,000円
(1泊3食・保険代等込み) 定員:20名(先着)

8月●夜の暗闇星空ウォッチング

23日(土)17:30~21:00
対象:小学生以上

9月●村の語り部と歩く集落ミステリーツアー!?

28日(日)10:00~16:00
対象:小学生以上

10月●杉の種取り名人と木登り体験

19日(日)10:00~16:00
対象:小学生以上

12月●飾り炭づくりと冬の恵みを味わう

20日(土)10:00~15:30
対象:小学生以上

2月●御船の滝の水瀑を見に行こう

2004年2月8日(日)9:30~15:30
対象:小学生以上

3月●水の音色♪水カンリンバづくり

2004年3月27日(土)10:00~16:00
対象:親子
※各日参加費:大人2,500円、小中1,000円 定員:25名(先着)

民俗講演会

いろいろばた教室

川上村、吉野川紀の川流域
全国の山地・川地の民俗を探る講演会

第3回 11月30日(日)

第4回 2004年2月1日(日)

創刊にあたり



吉野川紀の川の源流、
『水源地の森』三之公天然林

この森は長い間人の手が入らず、今も自然のままの姿が残っています。今後、調査が進むにつれ、私たちに人間が自然とどう関わっていくべきかを示唆してくれることなのでしょう。

「森と水の源流館」が開館してあっという間に1年が過ぎ、皆様の応援とご協力を得て、機関紙「ぼたり」を発行することができました。昨年に「森と水の源流館」を訪れてくださった方々も約25,000人と、予想を超えた数になりました。そして、アンケートを見せていただいても気に入っていただいているようです。

しかし、展示施設は一度見てしまうと2回目、つまりリピーターとなってしまうのが大変むずかしい施設です。

それでも時々「また来ましたよ」と言ってくれる人もいて、うれしく思う日もあります。

今年は「源流の森シアター」で流す映像をもう1本撮影しようと思っています。

「川編」として、水中の映像を多く、日ごろ覗くことのできない水の中の世界に迫りたいと思っています。

また、「水源地の森」の調査を実施おり、きっと驚くような発表ができるのではないかと考えています。

「源流体験教室」や民俗学調査に基づく「いろいろば教室」なども動き始めています。

常に新しいことに取り組み、動いている源流館でありたいと思っています。

新しい発見が待っている「森と水の源流館」へリピーターとして何度もお越しください。



館長 辻谷達雄

川上村で半世紀以上林業に従事。山のことは何でも聞いて下さい。「達つちゃんクラブ」も主催。

森と水の源流館スタッフ紹介



事務局長 坂口泰一

「吉野川源流物語」「川上宣言」そして「森と水の源流館」へと、熱い思いと共に進んできました。源流部の川の中をのぞいたときの感動を伝えたい。



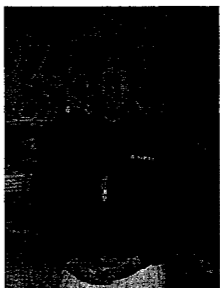
経理総務班 黄瀬桂子

モンゴルを訪れ、自然と人間の文化に興味を持つ。目下、川上村と、吉野川紀の川流域などの民俗を探る中。



企画調査班 今福和男

雨男科/雨男属。生息地：水源地の森(恵みの雨はわたしのおかげ?)とパソコンの前。只今、源流に弟子入り中。



経理総務班 成瀬匡章

専門は日本史(古代史)。研究テーマは吉野地域の歴史と文化です。休日には未発見の遺跡を求めて川沿いを調査しています。



企画調査班 林田弥生

緑ごしの空や花や虫や草や土の匂いに風を感しながらまったり過ごすのが好き。私は森の案内人。



尾上忠大

「パートタイマー」(?)で事業の企画を担当。いろんな人、いろんな考え方、そのおもしろさとチカラをつないでいきたいです。

LOOK

水源地の森の 主役たち

ミズタバヒラコ(水田平子) ムラサキ科

初夏の水源地の森、あちこちの岩肌や苔むした谷から水がしたたり落ちています。そんな場所ですりそり咲いているミズタバヒラコ。よく見ないと見過ごしてしまいそうなほど、一つひとつの花は直径が25〜3mmという小ささ。色は青とも紫ともいえぬ、淡くてやさしい色。山地の溪流近くなどに生える多年草です。また来年も、せせらぎの中で、その可憐な姿を見せてくれることでしょう。



吉野川紀の川 源流人会 会員募集

おいしい水のこと、美しい森のこと、少しでも源流の自然に興味のある方ならどなたでもお気軽に参加できます。吉野川や紀の川の自然をこよなく愛する仲間として上下流に暮らすみんなと一緒に源流の自然を育んでいきませんか?

事務局

財団法人吉野川紀の川源流物語
住所 ■奈良県吉野郡川上村宮の平
TEL 07465・2・0888
e-mail ■genyuu@joy.ocn.ne.jp

水源地の 森守 募金

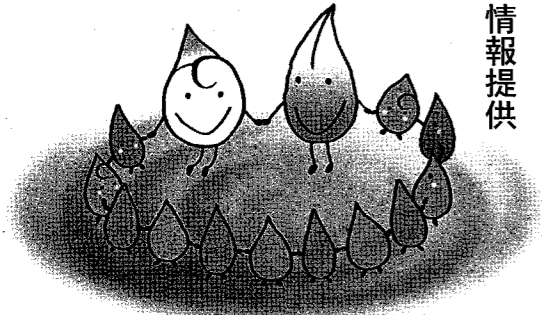
～森を守ってモリモリ元気な水源地～

財団法人吉野川紀の川源流物語では、みなさんと共に先人たちの守ってきた森を、これからも「水源地の森」としてずっと守り続けていきたいと考えています。そこで『水源地の森』の保全を支援するための募金を募っています。郵便振込でも受け付けています。ご協力のほどよろしくお願い致します。

口座番号
0095-2-331164
『水源地の森守募金』あて

おまちしています！ 吉野川紀の川に関する情報提供

吉野川紀の川に関する情報ならどんな些細な事でもお知らせ下さい。森と水の源流館のホームページでは皆様の情報を源流人会で共有するために掲示板を設置しています。入室には会員のパスワードが必要になりますが、会員相互の活用を促進に行うことにより川への知識や情報が多くなり、保全への意識が高まることとなります。





▲専門家による調査の様子

オオダイガハラサンショウウオ▶

平成11年から4カ年をかけ、三之公に残る原生林を約740ha購入することができました。そして「吉野川源流―水源地の森」として保全していくことになりました。

この森の周辺では20年前ごろから伐採が進んでいました。そんな中で、水源地の森を守ることができたことに、大きな意義があると思っています。

十四年で伐採も終わり、今後は長い年数をかけ自然の森にかえっていくものと思います。

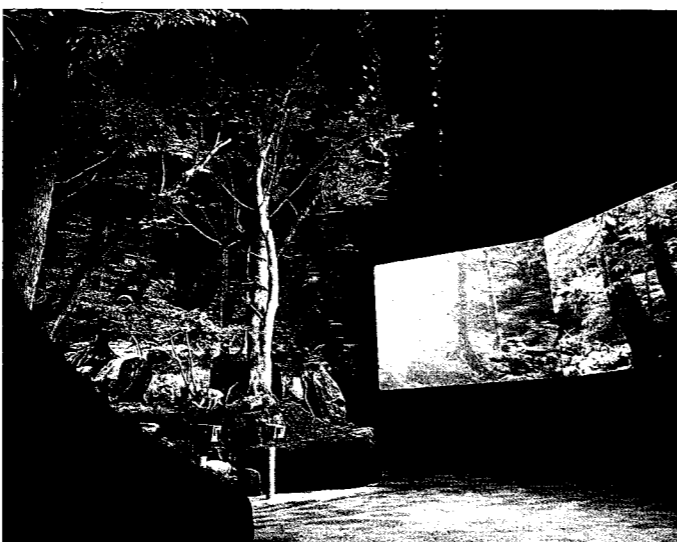
昨年从今年にかけて、水源地の森の調査を実施しています。

動物相、植物相などどんな生物が水源地の森でいるのかをまずは調査します。その結果によって保護しなければならぬものがあれば、その計画をたて、より詳しい調査をしなければならぬと考えられています。

中間的な報告として、オオダイガハラサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ナガレヒキガエル、

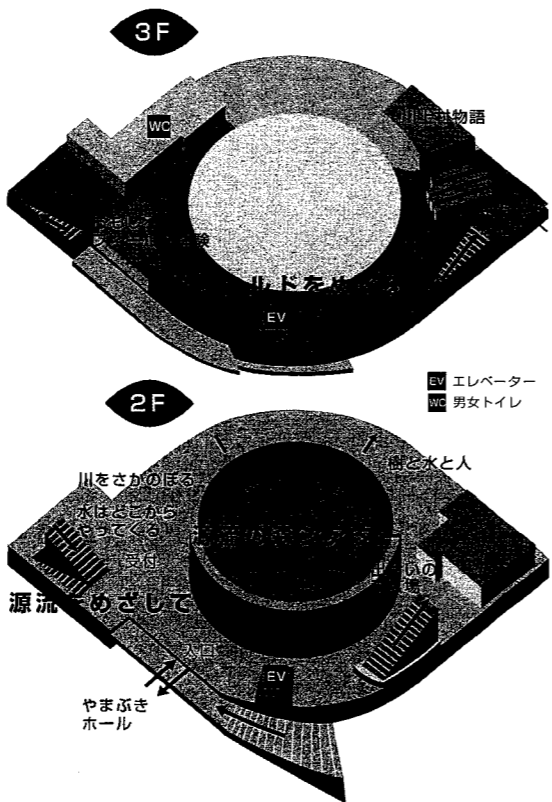
ナガレタゴガエルが確認されました。多くの樹種がありますが、幹周り、樹高などを種類ごとの巨木を調査します。

また、哺乳類、植物、昆虫、鳥の調査が行われます。調査結果の報告をホームページや次回に詳しくできればと思っています。



本物の巨木が立ち並ぶシアターで原生林のいとなみを体験しよう。

源流の森シアター
日本最大級のパノラマで、源流の森の不思議を体験しよう



川上村の奥深くにある源流は、私たちの暮らしに大いなる自然の恵みを授けてくれています。森の木々は、恵みの雨をその根元いっぱい蓄え、土を守り、空気を浄化し、谷筋から湧き出る水はやがてひとすじの流れ…吉野川・紀の川となって奈良盆地や遠く和歌山平野にいたる大地を潤しています。この豊かな森林と水の恵みを、未来の子どもたちに手渡したい。源流を通して自然と私たちの関わりをみなさんといっしょに考え行動し、その体験から一人ひとりが答えを見出していく取り組みを川上村は「源流学」と名づけました。「森と水の源流館」は、源流(源流学)へといざない自然や環境、そこに棲む生き物たち、いにしえからの人々の暮らしなどを紹介する「発見への入り口」です。源流とは何か？ 私たちの暮らしとどんな関係があるのか？「森と水の源流館」でいっしょに体験してみませんか？

源流の森の雄大な自然につつまれて、生命の物語に出会いましょう

森と水の源流館

昨年4月29日は前日から多くのボランティアのみなさんに手伝ってもらいながらのオープニング。みんなが新人でした。

その後のゴールデンウィーク期間中だけで2,500人も人が来てくれ、ハラハラどきどきのスタートだったのを思い出します。

毎日のように「こうしたほうが良いのでは」「いや、こうあるべき」などと、バトルをしながら取り組んできました。

みなさまのおかげで無事に1年間が過ぎ、

1周年のイベントの企画は結構落ち着いて、できたのではと思います。でもやっぱりたくさんのご意見を詰め込もうとする、欲張りな企画だったかもしれません。

いろんなことがあった1年間を振り返って、ご報告させていただきます。



自然観察会
水源地の森探検ツアーがスタート

5月、自然観察会がスタート。「水源地の森」へのツアーが始まりました。森と水の源流館ではツアーを月1回行い、水源地の森の保全の大切さを訴えています。



源流シンポジウム開催
5月25・26日には「源流シンポジウム」を開催。全国の源流の仲間が川上村でパネルディスカッションを行いました。

森と水のワークショップ
7月20日・21日は「世界子ども水フォーラム森と水のワークショップ」を開催し、子ども達に源流の森を見て、触れて、感じてもらう体験学習がスタート。



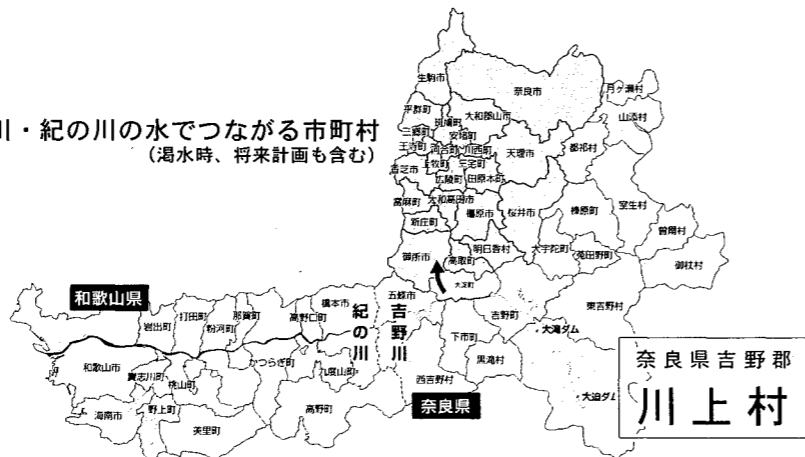
副読本の発行
学校・団体への啓発学習プログラムを実施。県内及び紀ノ川流域の小学校の児童に無料配布する「副読本」の制作に取り組み、370校2万人に配付が終わっている。



学校・団体への啓発学習プログラムを実施。県内及び紀ノ川流域の小学校の児童に無料配布する「副読本」の制作に取り組み、370校2万人に配付が終わっている。

吉野川源流水源地の森の調査を開始。
調査期間は平成14年10月から平成16年3月。樹齢数百年の天然のスギ、ヒノキやトガサワラなどの樹木や動植物・水生生物などの多種他用な生態系が明らかにされていく予定です。

吉野川・紀の川の水でつながる市町村
(濁水時、将来計画も含む)



吉野川紀の川流域の生き物を紹介



森で楽しく遊ぶためのポイントがいっぱい



「源流学」がいわゆる学究や学
会といった解釈で専門家による
学術的知識体系の類などとい
じられると困ってしまう。都市
生活者のように近代文明にとっ
ぶりつかり、一人では生きてい
事すらできない人達に、生きてい
くための「こつ」を、源流に住む
おじいちゃん、おばあちゃんに学
んでみようというくらいからス
タートした方がいい。ただこれは

学んでどうするのかという点で
「豊かな」とは何ぞやとか、これ
からの日本の国土はどうあれは
よいのかぐらいいは酒席の肴にし
ても良いし、いささかの洞察も必
要である。
「自然再生推進法」とか「自然共
生型流域圏・都市再生」等、国家の
政策が香りとしたただよっている。
それが21世紀の日本の国家方針
になりうるのかどうか分からない

いが、我々NGO、NPOの視点
で、地べたから学ぶ行動を始めよ
うということでは、源流学は運動
論に比重を置く方が分かりやす
い。すでにある新生活運動やニュ
ーコミュニケーションとは違い、もう少
しサラリとやるようなわきまを
しているのではないか。いま思案し
れるかである。

源流塾がはじまりました

学び、考え、触れ、話し合い、遊び、喜びを分かち合う

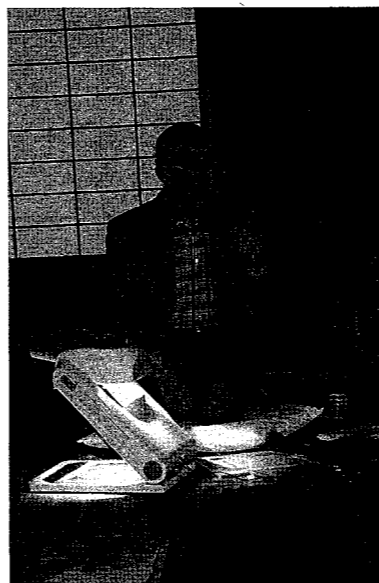
森と水の源流館では、次ぎ
の3つの役割で事業を進めて
います。源流の自然、水源地
を守る大切さをわかり
やすく伝える。「地球環境問
題・水資源問題を「水源地」
の視点から考える。本場の森
や水の「楽しさ」を分かち合
う交流の輪を広げます。

第1回 源流塾 4月29日(土)

演題 「吉野川」
講師 御勢久右衛門先生
(奈良産業大学名誉教授)

半世紀にわたり、「吉野川・紀の川」を生態系や水
質などの様々な調査を通して見てこられ、今もな
お川とふれあひながら、生きた情報を私達に届けて
くれる先生のお話しは、とても興味深く、参加され
たみなさんはスライドに見入りながら熱心に聞き入
っていました。

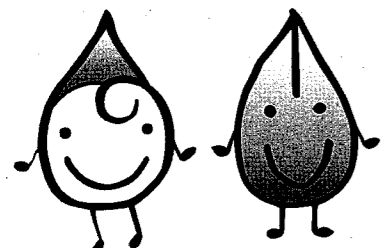
吉野川の生命を育む力については、自身が調査
されたカナダやアメリカ、マレーシアなどでの河
川の調査結果をふまえながら、実は吉野川が世界
でも有数の低生動物の生息量を誇っていること紹介
。しかし、一方で昭和40年代ごろからの水質悪
化や、生態系の変化について定点観測による記録
などから指摘。最後は、これからの私達の課題は、今
、当たり前のように感じている、水を汚してはまた
浄化して...という「水のリサイクル」は果たしてし
かたのないことか?といった水の恵みについて、
もっと関心を持つことができるかどうかだと締め
くくられました。



「源流人会」は源流及び流域
の自然環境、歴史・文化を深
く知る事により現在の環境問
題への取り組みを考え、
源流人会ではこの源流学を
学ぶため、「源流塾」を開校
いたしました。

第1回は理学博士である御
勢久右衛門氏を講師に招いて
「吉野川」についてお話しを
聞きました。御勢先生は奈良
県川上村を水源地とする吉野
川・紀の川流域での長年の調
査の結果を「大和吉野川の自
然学」としてまとめられまし
た。今回の講演はこの本の内
容を調査当時のエピソードを
交えながら分かりやすく教え
て頂きました。

源流人会はこのように自然
や歴史のスペシャリストの先
生方をお招きしたセミナーや
シンポジウム、また、インテ
ーネットを使った情報交換を
行っています。さらに、現
在、「水源地の森」の動植物
の調査研究が進められていま
す。貴重な動植物が発見され
た場合にも先ずは会員の方に
お知らせしたいと思っていま
す。より深く、より新しい情
報をお聞きになりたい方は、
是非会員登録をお願いしま
す。次回の源流塾は、「水源地
の森」へ行きたいと思いま



第1回いろいろた教室 4月26日(土)

演題 「吉野川紀の川の民俗」
講師 浦西 勉先生 (奈良県教育委員会 文化財保存課)

川上村の民俗学的特徴に「一年神主」があります。職業的な神主をおかず、住民が一年ごとに交代で神主を務めるこの風習は、全国的にもう残っていません。今も残っている川上村は特異な例であると教えていただきました。このような祭りの風習を、大事に大事に守ってきた川上村の人びとの心の風景は豊かです。



また、川上村は田んぼが一反もありませんが、昔からヒエやアワなどを作ってきました。そして実は、川上村はとても穀物が育ちやすい地なのだそうです。「稲作は豊かな食べ物、アワやヒエなどの穀物は貧しい食べ物」と思われがちですが、決してそうではないということです。ヒエやアワなどは、カロリーがあり、自然の豊富な山村では、木の実もプラスで取れるので、かなり食材が豊富で、かえって山村は、食文化が豊かなのだそうです。

自然が豊富に残る源流の村、川上村。今なお独特の伝統行事が大事に守られ、自然に調和した素晴らしい源流の生活が繰り広げられているのです。

第2回いろいろた教室 6月29日(土)

演題 「山に起き伏すー熊野修験大峯奥駈行」
講師 宇江敏勝 先生 (作家)

炭焼き職人の家庭に生まれて、炭焼き小屋で暮らしてこられた宇江先生はその当時の様子を「急な斜面で暮らしていましたので、犬や家畜などはくくられていないのですが、人間の子供はひもでくくられていました」と山から山への移動の暮らしのお話から始まりました。小学校5年生の時には、山中でのお産で、父親が弟をとりあげるシーンを見ることになり、人が生きる原点を目の当たりにします。宇江先生はそんな経験の中、炭焼きや植林の生活で紀伊半島の山々と深く関わりを持つことになったと言います。



現在、紀伊半島の3つの参詣道が来年にも世界文化遺産登録になる予定です。宇江先生はこの、中辺路、小辺路、大辺路を山岳宗教の道としての共通点から紐解いていき、そして山岳宗教が盛んになった背景には「紀伊半島の森林が日本列島の北から南までの植生が集まった場所であり、森林の魅力を語るのにふさわしいところです。」と講演されました。

最後に柳田国男の「遠野物語」をひいて、「本当の宝は「川上」、「源流」にあると言えます」と三之公そして川上村を宝の森と讃えられました。

